

7月21日（木） みんなでおしゃべりする日#4  
「ハラスメント対策ってなに？」

美大は、大学内での人との関わりが卒業後の社会生活まで継続することがあります。その環境でハラスメントを経験をした際、それを解決することはなぜ難しいのでしょうか。学生同士や教員との関係性を壊したくない、将来の仕事へひびくのが怖いということ以外に、どんな理由があるのでしょうか。ハラスメント被害の経験を言葉にして他者に伝えるというのは、心理的負担がとても大きな行為です。またそれをヒアリングする人も気がつかないうちに相手に同調し、自分が被害を受けたような感覚になり（これを代理受傷、あるいは二次受傷と呼ぶそうです）、被害者の話を受け入れづらくなってしまいうことがあります。誰がどのような知識を得れば、訓練を受ければ、どのようにシステムを整えれば、ハラスメントの被害を減らすことができるでしょうか。我々はどのように周りとは協力することができるのでしょうか。今回はいくつかの事前資料をみんなで共有した上で、より深い話し合いをできればと思っています。

○話し合いたいトピック○

**大学環境に関する疑問や課題は、どんなものができるだろう？**

- ・美大でできた人間関係の多くが、在学時だけでなく卒業後も続いていくことから、実際に受けたハラスメントについて言及したり、被害を訴えることへのハードルが高い。
- ・先生の意見に従わなければいけないという空気がなぜあるのか。
- ・大学のハラスメント相談に行きづらいのはなぜか。
- ・教職員へのハラスメント教育だけで十分なのか。学生は守られるのか。

**大学のハラスメント対策として、なにができるだろう？**

- ・被害者、当事者へのヒアリングの方法
- ・当事者が話す時の心理的負担への配慮
- ・ヒアリングする側が二次受傷しないための知識  
（ヒアリング側が専門知識を持っていない、職業訓練されてないケースなど）
- ・後遺症や回復期の対応と配慮（学生が安心して勉学に励める環境作りへのケア）
- ・学生から大学へどういった意見を届けたら、相談窓口が改善されるのか
- ・意識の問題（アンコンシャス・バイアス）と制度や仕組みの課題

○参考資料○

以下の資料はハラスメント被害全体を補うことができるわけではありませんが、一つの参考資料として共有したいと思います。

- ・ [特定非営利活動法人 アカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク動画教材チャンネル](#)
- ・ [EGSA（ハラスメント防止ガイドライン）](#)
- ・ [「大学教育改革の実態把握及び分析等に関する調査研究」調査報告書](#)
- ・ [文科省などにおけるハラスメント対策に関する取組](#)
- ・ [SW/AC Social Work / Art Conference（HAPS）](#)
- ・ [26話「男性の性被害～5F反応と後遺症～」](#)  
※このツイートでは「5F反応」という心理状況に関して説明しています。記事内では被害の描写はありませんが、フラッシュバックなど症状のある方はご注意ください。
- ・ [NHK「性暴力」裁判 被害女性が語った15分のことば](#)  
※この記事では性暴力被害の実態を広く伝えるため、被害の詳細について触れています。フラッシュバックなど症状のある方はご注意ください。ツイートから「性暴力を考える」という記事もご覧いただけます。